

赤十字

●発行所

日本赤十字社 千葉県支部

Japanese Red Cross Society

〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7 TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812

インターネット・アドレス <http://www.chiba.jrc.or.jp> E-mail: info@chiba.jrc.or.jp

NOW 千葉 2011.3 Vol.18

ハイチ大地震発生から1年、明るい未来を信じて 西半球の最貧国と言われているハイチ共和国。

2010年1月12日、大地震が首都を直撃し、死者22万人、被災者200万人以上の壊滅的な被害をもたらしました。

各国赤十字社と連携した救援活動は前例のない程の困難を極めました。

日本赤十字社(以下日赤)では、主に医療救援活動を担当。

首都ポルトープランスで仮設診療所による医療支援、巡回診療による被災者救援に取り組んできました。

当支部からは、日赤医療チーム第4班のメンバーとして、成田赤十字病院 浅香朋美 医師(整形外科)、
第5班には、連絡調整員として津田直人係長が派遣され、被災者救援にあたり、そのミッションを終えました。

10月のコレラ蔓延、11月のハリケーン襲来と被害が拡大し、いまなお、

130万人もの人々が避難生活を強いられています。

皆さまの善意21億円の義援金とお気持ちを胸に、

引き続き、日赤はハイチの人々の“生きる”を支えてまいります。



▲支部 津田 直人係長
各国赤十字社や他のNGOとの連絡調整にあたる重要な
ミッションを担当、円滑な救援活動の鍵を握ります。



▲ハイチの明るい未来のために
希望を託して幼子を抱く
浅香 朋美(あさかともみ) 医師(成田赤十字病院 整形外科)

日本赤十字社千葉県支部は、地震・水害などによる被災者の救護活動や医療・血液・福祉など、幅広い分野で活動しています。

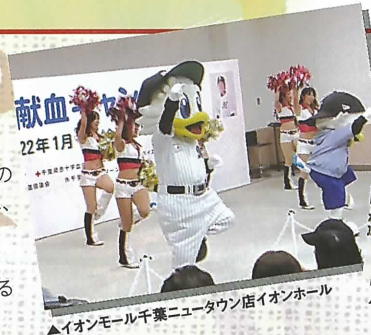
赤十字NOW本号では、千葉県支部がこの1年(平成22年1月~12月末日)までに取り組んできた、事業や活動を紹介いたします。多くの皆さまに支えられ、今後も事業や活動を更に推進してまいります。

1月 January

はたちの献血キャンペーンで幕開け!

2010年年明け早々の1月9日(土)、(株)千葉ロッテマリーンズとのパートナーシップのもと、「はたちの献血」キャンペーンを広めるイベントを行いました。このキャンペーンは、毎年1月1日から2月末日までの2か月間、全国一斉に行われています。

会場には、マー君ファミリーとともに、「はたち」を迎えた唐川侑己選手が登場。トークショーや、サイン会、マー君ファミリーダンスショーなどを交え、20代を中心とする若い皆さんに献血へのご協力を呼びかけました。



▲イオンモール千葉ニュータウン店イオンホール



▲献血への思いを語る唐川選手。

2月 February

「ご協力をお願いします」 青年赤十字奉仕団メンバーが募金の呼びかけ。 ハイチ大地震救援金街頭募金活動。

2010年1月12日、ハイチの首都を直撃した大地震被災者を救いたいと、2月10日(水)、青年赤十字奉仕団淑徳大学分団メンバーは、寒風吹きすさぶJR千葉駅前にて、救援金へのご協力を呼びかけました。

若さ溢れる呼びかけは、道行く人々の注目を集めました。お寄せいただいた救援金は、当支部を通じ被災された方の救援に役立てられました。



▲寒風の中の募金活動。 ▲救援金を届けるメンバー代表。

米国機がタービュランス(乱気流)に遭遇! 成田赤十字病院が被災者救護活動を展開しました。

2月20日(木)、米ワシントン発成田行きユナイテッド航空897便が、アラスカ上空を飛行中に乱気流に巻き込まれました。同機は午後3時45分、成田空港に着陸。同日午後3時ごろ、ユナイテッド航空の空港職員から成田市消防本部に「乱気流に巻き込まれ負傷者がいる」と通報があり、成田赤十字病院では、16名の負傷者のうち14名を受け入れました。



▲成田ならではの、海外の患者の受け入れ。



▲幸い皆さん軽症でした。

千葉県支部初! JRと共同開催。 列車事故想定救護訓練(2月18日(木)) 【想定】JR成田駅付近の踏切に大型トレーラーが 誤って進入し、4両編成の列車に衝突。

「大型トレーラーは荷台部分が大破し、列車内に多数の負傷者が発生。」という想定のもと、実際の列車を使用した本番さながらの訓練を行いました。

成田赤十字病院への被災者搬送をはじめ、画像伝送システムを使用した情報収集や連絡調整、輸血用血液供給、アマチュア無線による非常通信や現場での応急手当、救助関係者に対する非常炊きだし、外国人の負傷者に対する通訳支援など、赤十字施設はもちろん、赤十字奉仕団も参加して、支部の災害救護総合力が試されました。



▲本番さながら! 緊迫した訓練の様子。



▲実際の列車内での救護訓練。

3月 March

さあ大変、「思うように体が動かない!」 赤十字奉仕団技術指導者研修会。

3月5日(金)、千葉県赤十字会館を会場に、赤十字奉仕団を対象とした技術指導者研修会を行いました。

最近では、地域の小中学校が行う総合学習プログラムに「高齢者疑似体験」「視覚障害者疑似体験」などの講座が組み込まれ、障害を持つ方などへの理解が促進されています。

学校からの要望に応えるため、支部と赤十字奉仕団が共同企画した研修会には、55人の奉仕団メンバーが参加。車イス操作の実際、高齢者疑似体験キットを着用した日常生活体験など、様々な講座の指導ができるよう、真剣に取り組みました。



▲実際の操作は難しい?



▲高齢者疑似体験キットを着用。

紛争犠牲者救済のための厳しいミッション。 成田赤十字病院看護師長をパキスタンに派遣しました。

3月17日(水)、赤十字国際委員会(IORC)からの要請に応え、パキスタン北西部ベシャワールにおいてIORCが運営する病院へ、国際救援要員として成田赤十字病院の松崎安容(まつさきやすえ)看護師長を派遣しました。

師長は、内戦が続く銃撃や爆発音も近くに聞こえる厳しい環境の中、紛争犠牲者への医療救済活動を行い、9月に半年の任務を終えて帰国。帰国後の報道インタビューでは「戦争では何も解決しない」「無関心がよくない。見えることだけがすべてではない」と語りました。



▲現地にてブルカを着用して。

▲出国直前 成田空港にて。

4月 April

◆ 熱い想いを受け取りました! 千葉ロッテマリーンズより寄付を受領いたしました。

4月18日(日)には、(株)千葉ロッテマリーンズからの寄付を受領いたしました。当支部では、かねてから献血の推進や赤十字キャンペーンなどに、同球団の選手の皆さんにご協力いただけてきましたが、この度は、同球団が行ったオークションの売上金を寄贈していただきました。

当日は公式ホームゲームに先立ち、スタジアムのホームベース前にて、西村徳文監督から森田健作支部長に目録が手渡され、ファンの皆さんに披露されました。



▲森田支部長・西村監督

5月 May

◆ 赤十字思想誕生150周年記念 日本赤十字社所蔵美術展。 ～あなたに届けたい、「人道」への想い～を開催しました。

赤十字思想誕生150周年を記念して、赤十字の創始者アンリー・デュナンが生誕月である5月を会期に、赤十字の活動の根底にある「人道」に共感された高名な美術家の皆さまからの寄贈美術品58点を一挙に公開する美術展を開催しました。会期中には、米田耕司長崎県美術館長を講師に迎えての講演会や、「ポートクイン千葉」が東郷青児画伯作「ナース像」に描かれた赤十字救護員の姿をお客様をお迎えするなどのイベントも行われ、7,300人を超える入場者を記録しました。



▲救護員姿で出迎え。大変好評でした。

◆ 30,000人の歓喜に 回る巨大赤十字リボンビジョン。 千葉ロッテマリーンズ 赤十字応援デーを開催。

5月3日(祝)、(株)千葉ロッテマリーンズより対日本ハム戦1試合の スポンサーになる機会を寄贈いただき、千葉マリンスタジアムにて、赤十字活動を 紹介するキャンペーン「赤十字応援デー」を開催しました。

試合開始のセレモニーでは西村監督・唐川侑己選手の赤十字応援メッセージが大型スクリーンに映し出され、同時に巨大赤十字リボンビジョンがスタジアムを走りました。このリボンビジョンは、試合中のあらゆる場面に登場し、30,000人の観客の目を奪いました。



▲スタジアムを駆け巡るリボンビジョン。



▲マー君ファミリーが救急法にチャレンジ。

◆ 幸せの花言葉 手作りの「スズランの押し花」が届けられました。

6月4日(金)、成田赤十字病院では、全日本空輸(株)グループの皆さんから、「スズランの押し花」を寄贈いただきました。

「幸せ」の花言葉があるスズランは、北海道から空輸され、客室乗務員・地上スタッフの皆さんが、業務の合間にしおりに加工しました。

「早く元気になって」の気持ちが込められた「スズランの押し花」1,000枚は、病と闘う小児科病棟の1人ひとりに届けられました。



▲早く元気になってね!

◆ 中学生職場体験 他ではできない、貴重な体験をしました。 義肢製作所で中学生が職場体験。

6月21日(月)から3日間、千葉市立大宮中学校2年生の男女2名が赤十字の仕事 を体験しました。

赤十字の歴史や事業内容についての講義の後、義肢製作所で義肢(義手・義足)の 製作を体験。苦戦ながらも熱心に作業に取り組む姿が見られました。

「社会福祉の分野に進みたい」と将来の抱負を力強く語る2人は、災害救護活動・献血 業務を体験するプログラムにも参加しました。



▲義肢装具士の指導を受けて組み立てを体験。



▲装着の調整に見入る2人。



▲指導を受ける金さん。

6月 June

◆ 障害を持つ人々を支えたい。 韓国女子大生が義肢製作のインターンシップで来日しました。

6月1日(火)から3ヶ月間、義肢製作所では韓国の福祉大学に在学中の金知恩(キム・ジウン)さんを海外研修生として受け入れました。

金さんは、日本のドラマを見て日本語の日常会話を習得した努力家。来日後は当義肢製作所で指導を受け、義肢製作の技術や利用者とのコミュニケーションを学びました。日本の義肢・装具製作技術を韓国に持ち帰り、将来は障害を持つ人々を支える仕事に就いていきたいと抱負を語っていました。



夏がきた! 水の事故から身を守ろう! 赤十字ジュニア・ライフセービング教室を開催しました。

7月25日(日)、千葉市稲毛海浜公園「いなげの浜」を会場に、ジュニア・ライフセービング教室を開催しました。

当日は40人の親子が参加し、準備運動の後、レジ袋や2Lのペットボトルを利用して水に浮かぶ技術を習得したほか、衣服を着たまま泳ぐ「着衣泳」を体験し、水の事故から身を守る方法を学びました。さらに、奉仕団メンバーが行う「水難救命デモンストレーション」の見学や、ビーチクリーン活動も行っなど、充実した夏の日となりました。



▲指導員のもと着衣泳を学びました。



▲2Lペットボトルで浮く練習。



▲レスキューボードを乗りこなしています。

7月 July

自分たちの目で見た赤十字活動。 青少年赤十字メンバーをバングラデシュに派遣しました。

7月24日(土)~28日(水)まで、県内の青少年赤十字中学生・高校生のメンバーの代表8人をバングラデシュ人民共和国に派遣しました。国際交流派遣は、異文化とふれあい、他国のメンバーとの交流を通して国際社会の一員としての視野を広め、自覚を高めることを目的としています。今回派遣されたメンバーは、同国赤新月社への表敬訪問のほか、現地メンバーとの交流や日本赤十字社が実施している教育等支援事業の成果の視察などを行いました。

※イスラム教信仰国では、国民への宗教的な配慮から、各称や標章に赤十字を使用せず、「赤新月」を使用します。



▲現地では大歓迎を受けました。



▲交流会の様子。

中学生が献血を呼びかけました! 船橋市立坪井中学校職場体験。

7月27日(火)~29日(木)の3日間、船橋市立坪井中学校第2学年生徒151人の職場体験を受け入れました。

3日間のプログラムでは、血液や献血についての学習を行った後、県内の献血ルームで実際の献血を見学するとともに、赤十字の職員と共に街頭で献血呼びかけを体験しました。

体験した生徒達からは「通り過ぎる方が「ご苦労さま」といってくれて嬉しかった」などの感想が聞かれました。



▲街頭での呼びかけ。緊張したかな?

白菊に込める慰霊と更なる赤十字活動への誓い。 殉職赤十字救護員慰霊祭を行いました。

終戦の日を前にした8月13日(金)、千葉県支部では殉職赤十字救護員慰霊祭が行われました。

この慰霊祭は看護師OB等で作る日本赤十字社看護師同会千葉県支部が主催したものです。およそ40人の参加者(職員等)が、黙祷ののち、慰霊碑「和魂(にぎたま)」に白菊を献花し、戦時救護の殉職者を慰霊するとともに、平和と赤十字活動への思いを新たにしました。



▲思いを込めた献花。

熱帯夜のイベントを支える陰の力。 赤十字奉仕団が千葉市花火大会で救護活動を展開しました。

8月7日(土)、千葉県支部では、多くの方の目を楽しませる千葉市花火大会の救護活動を行いました。人出が予想されるイベントでの、体調不良や怪我の救護にあたるもので、特殊救護奉仕団、青年赤十字奉仕団、赤十字看護奉仕団が協働して取り組みました。

夏の夜空を彩る華やかな花火と対照的に、陰の力となることに喜びを得る奉仕団員は、夕方から深夜まで活躍しました。



▲怪我・体調不良に対応します。



▲無線を使用した救護活動。

8月 August

僕らの熱い夏 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター(JRCTC)開催。

千葉県支部と県青少年赤十字指導者協議会は、毎夏、未来のリーダーを養成するJRCTCを開催しています。記録的な猛暑の中、7月26日から8月22日までの間、青年の家など12地区の会場では、小学生、中学生、高校生393人、指導者207人、計600人が参加。

赤十字について学ぶとともに、リーダーシップに必要な知識・技術の習得に取り組みました。

▶寝食をともに、救急法等を学んだJRCTC。



◆ 猛暑の中、地震発生! 赤十字救護班・奉仕団出動! 九都県市合同防災訓練に参加しました。

千葉県支部は、9月1日【防災の日】、君津市西君津の小糸川漁港隣接地において実施された第31回九都県市合同防災訓練に参加しました。

「千葉県南部を震源とするマグニチュード7.9の直下型地震が発生し、君津市では震度6が観測され、市内全域で甚大な被害が発生した」との想定での訓練。大掛かりなセットが組み立てられ、総数8,200人が参加し、ヘリコプターによる救助活動から、地元住民やボランティアによる初期対応まで幅広い訓練が行われました。



▲医療救護班出動!



▲炊出し7000食を作りました。

9月 September

◆ 「人類の約束」ジュネーブ条約について考えよう。 長編アニメ「ジュノー」上映会を開催しました。

9月10日(金)、千葉県赤十字会館において長編アニメ「ジュノー」上映会を開催しました。

「ジュノー」は、広島に原爆が投下された直後、GHQに掛け合い15トンの医薬品を提供させたスイス人医師「マルセル・ジュノー」の生涯を描いた作品です。

アニメの上映に先立ち、赤十字国際委員会(ICRC)駐日事務所長の長嶺義直さんによる「人類の約束 ジュネーブ条約」と題した講演を行いました。



▲講演会に熱心に聞き入る観客。



▲長嶺義直ICRC駐日事務所長

◆ ボランティアサービスのニーズを発見します。 レッドクロスボランティアスクール開催。

千葉県支部では、赤十字地域奉仕団と合同で、9月29日(水)~30日(木)、千葉市美浜区の海外職業訓練協会(OVTA)を会場に、同スクールを開催しました。

地域奉仕団のリーダー養成を目的にしたスクールには、各地区区分から推薦された40人が参加。参加者は、赤十字の基本原則、ジュネーブ条約など、赤十字の基礎を学ぶとともに、ボランティアニーズを発見する方法等の実習、グループ学習を行うなど、リーダーに相応しい知識と技術の習得に努めました。



▲グループ学習の様子。



▼リーダーへの一歩を踏み出しました。

10月 October

◆ 競技中のアスリートの全力を支えました。 全国障害者スポーツ大会に義肢装具士を派遣。

義肢製作所では、10月22日(金)から25日(月)まで、県内で開催された「第10回全国障害者スポーツ大会(ゆめ半島千葉大会)」に義肢装具士を派遣しました。

これは、競技中装着している義足・義手などに不調が出た場合、応急対応をするために行われたもので、卓球、陸上など3つの競技会場で義肢装具士が待機。幸いにも会期中に大きなトラブルはなく、ベルトの交換などの簡単な対応を行い、4日間の仕事を終えました。



▲義肢装具士にとっても貴重な経験となりました。

11月 November

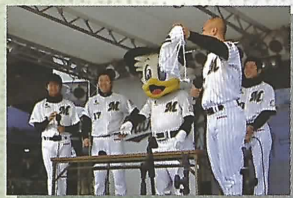
◆ 奉仕団の技とアイデアが結集。 千葉ロッテ選手ユニフォームの リサイクルバックのオークションが行われました。

2010年、千葉県支部では(株)千葉ロッテマリーンズと協働して、同球団選手が試合で着用し不要になったユニフォームを、奉仕団が行う裁縫奉仕活動でトートバックや小物入れに再加工する活動を行いました。

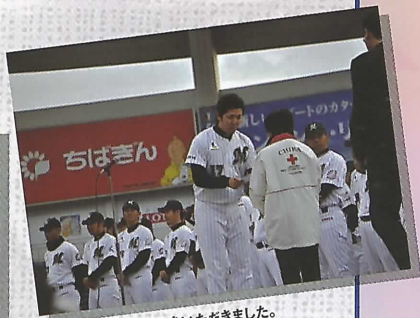
これらの製品は11月21日(日)に開催された日本選手権シリーズ優勝報告会でオークションされ、約600人の観衆は人気選手の品物を手に入れようと、熱い争奪戦を繰り広げました。なお、オークションの売上げ金343,440円は、赤十字の活動へ寄付されました。



◀作業の様子。



▲オークションでは選手自ら製品のアピール。



▲成瀬選手から目録をいただきました。

11月 November

◆ 更に強固なリーダーシップ発揮のために！ 特別奉仕団リーダーシップ研修会開催。

千葉県支部では、11月13日(土)、14日(日)の両日、千葉県赤十字会館を会場に、特別奉仕団員を対象としたリーダーシップ養成研修会を開催しました。

この研修会には、青年・安全・看護・語学・特殊救護・安全水泳・青少年赤十字賛助(全て奉仕団を省略)、成田赤十字病院ボランティア会の8つの奉仕団から30人が参加。支部指導講師による赤十字の基礎知識、リーダーの資質等の知識の習得をはじめ、グループ討議を通じて、リーダーに相応しい知識と技術の習得に努めました。



▲グループ討議。活発な意見が飛び交います。



▲指導講師による講習。

◆ 支部をあげてのおもてなし。 バングラデシュ赤新月青少年メンバーを受け入れ。

11月12日(金)から、青少年赤十字国際交流事業の一環として、バングラデシュ赤新月青少年メンバー2名を受け入れ、県内の青少年赤十字メンバーと交流を図りました。

バングラデシュメンバーは県内の中学校で生徒たちと日本文化体験や授業体験、給食体験などの交流を行い、18日(木)には県庁の千葉県支部長 森田健作知事を表敬訪問して、森田支部長の熱い歓迎を受けました。



▲森田支部長も歓迎!



▲日本の生徒たちと交流、相互理解を深めました。

◆ 「イクメン」集まれ! 小さないのちを守るためにできること。 パパとママのための赤十字セミナーを開催しました。

12月5日(日)、「小さないのちを守るためにできること パパとママのための赤十字セミナー」を開催しました。

プログラムでは、成田赤十字病院の野口博史医師による講話、千葉ロッテ・伊藤義弘選手が参加した子育てトーク、幼児の誤飲による異物除去などの実技講習が行われ、約120人の観客が集まりました。パパ・ママがセミナーに参加している間は、奉仕団のメンバーが託児を引き受けて、セミナーを強力にサポートしました。



▲楽しくなる子育てトークでした。



▲パパもママも頑張りました。



▲託児は任せて大ベテランです。

◆ 「いのちと健康を守る」活動への想いを受け取りました。 千葉銀行より寄付金をお寄せいただきました。

(株)千葉銀行から、千葉県支部の「命と健康を守る」活動に協賛をいただき、その事業費に対し、寄付金(12,292,785円)をお寄せいただきました。

この寄付金は、同銀行が推進する「ひとの未来を育む」社会貢献活動の一環としてご支援いただいたもので、同銀行が販売する投資信託「ワールドサポーター(世界銀行債権ファンド)」の販売額の一定割合が財源となっています。

12月7日(火)、県庁知事室において贈呈式が行われ、(株)千葉銀行取締役頭取 佐久間英利様より、千葉県支部長 森田健作知事に目録が手渡されました。お寄せいただいた寄付金は、同銀行の意向に沿って救急法・幼児安全法普及事業の拡大・充実のためのAED訓練用的人形や、輸血用血液運搬車両の整備に充ててまいります。



▲AEDを使用した講習の様子。

佐久間頭取・森田支部長 ▶



◆ 更なるリーダーシップを身につけます。 クリスマスも返上で取り組んだ学習会。 青少年赤十字スタディーセンター(JRCSC)開催。

千葉県支部と県青少年赤十字指導者協議会は、毎冬、青少年赤十字スタディーセンターを開催しています。夏に行われたリーダーシップ・トレーニングセンター参加者から選抜された小学生28人、中学生20人、高校生20人が「のさか望洋荘」(匝瑳市)に集結。クリスマスイブから3泊4日で寝食をともにし、赤十字やリーダーシップについて、更に学習を深めるとともに、障害を理解するための技術を習得しました。



▲手話を学ぶ参加メンバー。

◆ ご協力ありがとうございました。 「NHK海外たすけあい」

「NHK海外たすけあい」は、海外で発生した災害や紛争による被災者の支援および開発途上国への開発協力を行うために、日本赤十字社が毎年NHKと共同で実施している義援金キャンペーンです。

2010年度も多くの方のご協力をいただき、12月21日(火)には千葉県庁ロビーでニューフィルハーモニーオーケストラ千葉による協賛ミニコンサートが行われました。

千葉市美術館においては写真展「OUR WORLD AT WAR～戦いを生き抜く人々～」も開催され、紛争地域の現実を広く知っていただく機会となりました。



▲写真に見入る人々。



▲コンサート会場は大盛り上がりでした。

12月 December